

山田万谷 マニタ 甚松山藩儒。文化二年一月二十一日備中國生れ、明治十年六月二十六日歿（八五―七）。諱球、字琳卿、通稱安太郎。別號松山、水山、無量壽庵、瑞山樓雙、阿隣等。初め朱子學と、のち佐藤一齋心陽明學と學ぶ。天保七年藩費有終館學頭、嘉永二年丁錦兼吟味役、のち都奉行。

文献、山田澤著『万谷先生年譜』（大正五年二月）千白岡山・岡山縣内務部）、伊吹岩左郎著『山田万谷』（昭和五年二月十五日岡山・順正高等女學校清書會）、小西千比古編『山田万谷東亞經濟叢』（内題「清國征討建議」昭和十六年十一月二十日東京地球協會「東亞球資料」）、宮原信著『哲人山田万谷とその人と詩』（昭和五十二年八月十五日白明徳出版社）等。

